

# 聖使徒教会コンスタンティノス霊廟再考<sup>\*</sup>

— バシレイオス一世とレオン六世の家族の埋葬 —

太 記 祐 — \*\*

## A Reconsideration on the Heroon of Konstantinos I — the tombs of the family members of Basileios I and Leon VI —

Yuichi TAKI

At the Church of the Holy Apostles in Constantinople, there was the Heroon of Konstantinos I, the rotunda of the 4th century, and the burial place of the first Christian emperor Konstantinos I (324-337). In the middle Byzantine period, Byzantine emperors found their final rest place in this mausoleum. In this study, the burial place of family members of two emperors, Basileios I (867-886) and Leon VI (886-912), are examined. The burial place of the family members of Basileios were divided into 3 groups, in the Heroon, in the Church of St. Euphemia at the St. Euphemia Monastery in the Petriou quarter of Constantinople, and in the Chapel of the Prodromos at the same monastery and the Heroon was reserved for Emperors and Empresses. But the all families of Leon VI, except one member, the 4th empress, Zoe Karbonopsina, found their burial place in the Heroon. And the imperial Heroon looks just like Leon's own family mausoleum.

**Key Words:** Constantinople, Byzantine Architecture, the Church of the Holy Apostles, the Heroon of Konstantinos I, the family tombs

### 1. はじめに

ビザンツ帝国の首都コンスタンティヌポリス（現：イスタンブール）を代表するモニュメントの一つに聖使徒教会があった。残念ながらオスマン・トルコ占領後の1462年にこの建物は取り壊され、跡地には征服者スルタン・メフメト二世を記念するモスクが建設された。当然、建築物は現存せず、わずかな建築部材が今日まで継承されているだけである。

しかしこの建築には、歴代ビザンツ皇帝の墓所があったことで有名で、古くから多くの研究者の注目を集めてきた。特に皇帝の墓所に関しては、また墓所の配置についてはグリエルソンの研究<sup>\*1</sup>が有名だが、近年、9世紀のアモリア朝からマケドニア朝にかけて聖使徒教会の霊廟としての位置づけに大きな変化があったとみなし、帝

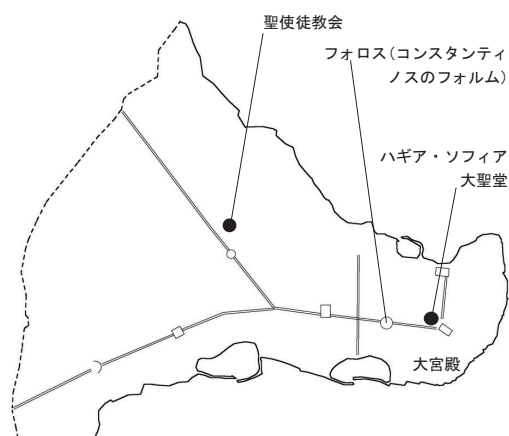


図1 10世紀コンスタンティヌポリスの概略図と聖使徒教会 (Cyril Mango, Le développement urbain de Constantinople (IVe—VIIe siècle), paris, 1990. をもとに筆者作成)

<sup>\*</sup> 平成19年5月31日受付

<sup>\*\*</sup> 建築学科

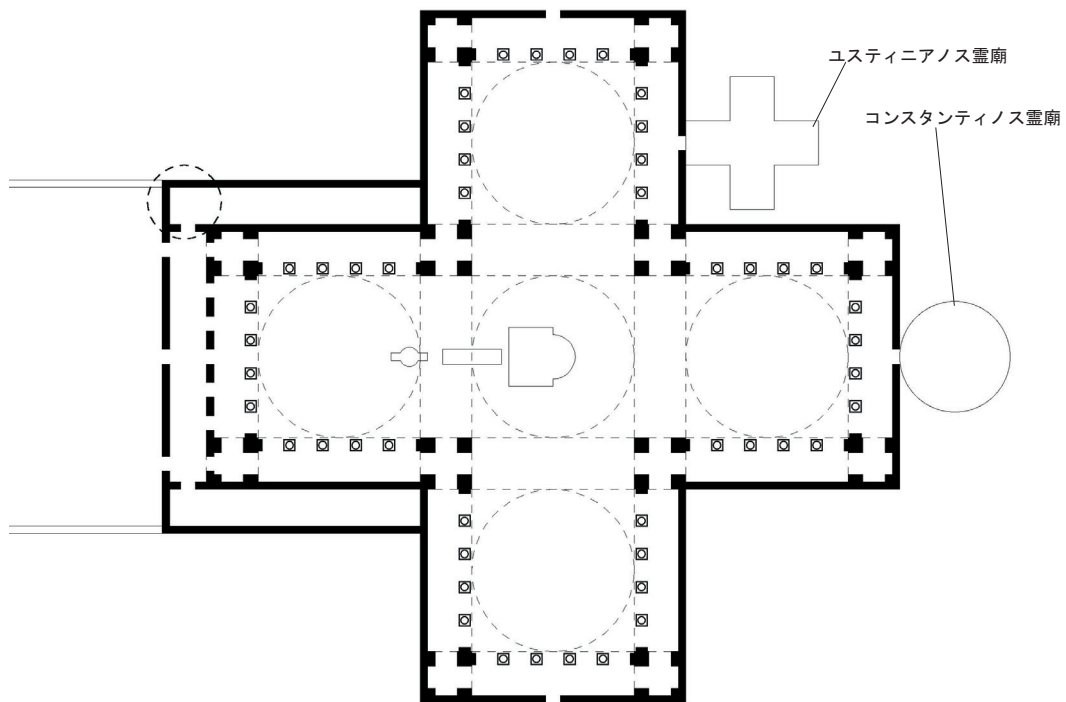


図2 聖使徒教会の概略図 (A. Heisenberg, Grabskirche und Apostelkirche, Leipzig. 1908. をもとに筆者作成)

権のあり方の変化と絡めて再考する動きがみられる\*2。そこで本稿では、マケドニア朝の最初の皇帝バシレイオス一世（在位867～886）とその子レオン六世（在位886～912）に注目し、皇族とその家族の墓について、史料の整理を通して再考を加えてみたい。

## 2. 聖使徒教会と霊廟

聖使徒教会には十字形平面をした聖堂本体の他に二つの霊廟があったことが知られている。歴代皇帝の墓所として使用されたのは主にこの二つの霊廟で、それぞれ建設者の名を取りコンスタンティノス霊廟、ユスティニアノス霊廟と呼ばれている。二つの霊廟もやはり現存しないが13世紀初頭のニコラオス・メサリテスの記述\*3など文字資料から建築形態がわかっており、前者は円堂、後者は十字形ないし四葉形平面の堂と想定されている。

なおこれら一連の皇帝の埋葬場所に関して、幾つかの一次史料が知られている。その中でもコンスタンティノス七世の『儀典の書』第2巻第42章にみられる埋葬者と埋葬場所の一覧\*4は特に重要といわれる。先に述べたグリエルソンは当時、このような墓所総覧ともいべき文書が何通りが作成されたことを紹介・整理している。また1200年前後に成立したニコラオス・メサリテスの聖使徒教会の紹介にも、二つの霊廟は言及されている。

さて皇帝の墓所について歴史的な沿革を振り返ってみると以下ようになる。コンスタンティノス一世による創建からコンスタンティノス霊廟が皇帝の墓所として使用されてきた。6世紀にユスティニアノス一世が新たに霊廟を造営すると、以後、このユスティニアノス霊廟が歴代皇帝の墓所として使用されるようになった。しかし9世紀後半のマケドニア朝から、再び皇帝はコンスタンティノス霊廟に埋葬されるようになった。そして11世紀初めのコンスタンティノス八世が、いずれの霊廟も含め、この教会に埋葬された最後の皇帝となった。彼の後の皇帝は、自分自身が寄進をし整備をした修道院に埋葬されることが慣例となった〔表1〕。

## 3. 霊廟の再変更について

さて皇帝の埋葬場所はいつユスティニアノス霊廟からコンスタンティノス霊廟に戻されたのだろうか。皇帝のリストを見るならばアモリア朝最後の皇帝ミカエル三世が一番古いように思われる。しかし実際にはミカエル三世はフィリッピコス修道院に埋葬されていたものを、後にレオン六世が改裝したものである。

ミカエル三世の次はマケドニア朝最初の皇帝バシレイオス一世だが、『儀典の書』の埋葬者一覧と没年を精査すると、バシレイオスの在位中879年に亡くなった彼の

表1 アモリア朝およびマケドニア朝歴代皇帝の埋葬場所  
(グリエルソン／井上をもとに筆者作成)

皇帝名	在位期間	墓所の位置
ミカエル二世	820-829	聖使徒教会ユスティニアノス霊廟
テオフィロス	829-842	聖使徒教会ユスティニアノス霊廟
ミカエル三世	842-867	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
バシレイオス一世	867-886	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
レオン六世	886-912	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
アレクサンドロス	912-913	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
コンスタンティノス七世	913-959	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
ロマノス一世	920-944	ミュレライオン修道院
ロマノス二世	959-963	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
ニケフォロス二世	963-969	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
ヨアンネス一世	969-976	大宮殿聖堂門救世主聖堂
バシレイオス二世	963-1025	福音書作者聖ヨアンネス聖堂／ヘブドモン
コンスタンティノス八世	1025-1028	聖使徒教会コンスタンティノス霊廟
ロマノス三世アルギュロス	1028-1034	ペリブレプトス聖母修道院
ミカエル四世	1034-1041	アナルギュロイ修道院
ミカエル五世	1041-1042	不明
テオドラ	1042/1055-1056	アンティフォネテス修道院
ゾエ	1042	オイコプロアステイア修道院
コンスタンティノス九世	1042-1055	聖ゲオルギオス修道院／マンガナ

長男コンスタンティノスがコンスタンティノス霊廟に埋葬された最初の例であることがわかる。

彼の埋葬，すなわち霊廟の変更には当然，父バシレイオス一世の意向が強く反映されているとみてよいだろう。その理由として先のグリエルソンは，ユスティニアノス霊廟が数多くの棺を収容するに至り，新たに棺を置く空間的余裕がなくなったためとしている。しかしながら単に空間的な問題だけならば，新しく霊廟を建設してもよく，何か別にコンスタンティノス霊廟に墓所をおく積極的な理由があった可能性が高い。事実，歴史学者の多くは，ミカエル三世を暗殺して帝位を篡奪したバシレイオス一世が，自身の帝位の正統性を主張するために，ビザンツ皇帝の伝統を利用しようとしたとみている。

#### 4. 皇族達の埋葬場所

それではバシレイオスの他の家族はどこに埋葬されたのか、『儀典の書』をみてみよう [表2]。

本人以外に，長男コンスタンティノス，二番目の妻エウドキア，次男レオン六世と四男アレクサンドロス，そしてバルダスがコンスタンティノス霊廟に埋葬されている。いうまでもなく妻エウドキアは皇后であり，前述の

コンスタンティノスは共同統治者で，残りの二人は後に皇帝になっている。残念ながらもう一人の男子バルダスは他の史料に言及がない，ちなみに三男ステファノスはコンスタンティヌポリス総大主教となっている。

しかし残りの家族は，例外的に一人がコンスタンティヌポリス市内プロモトス地区の聖ミカエル修道院に埋葬されているのを除けば，みな市内ベトリオン地区の聖エウフェミア修道院に埋葬されている。

つまりバシレイオス一世の家族に関してはバルダスという例外はあるものの，聖使徒教会の霊廟に埋葬されるのは皇帝や皇后という慣例に従っている。また他方，聖エウフェミア修道院の埋葬者を精査すれば，バシレイオスの母と兄弟は聖エウフェミア聖堂，姉妹は先駆者（プロドロモス＝洗礼者ヨハネのこと）の礼拝所と，微妙ではあるが厳然とした差が存在することに気がつくであろう。聖エウフェミア修道院の中心的な施設が聖エウフェミア聖堂であり，先駆者の礼拝堂は補助的な存在だったか否かは残念ながら推察の域をでない。

これに対してレオン六世の家族 [表3] は四人の皇后と息子であり皇帝となったコンスタンティノス七世だけでなく，その他の子供たちもコンスタンティノス霊廟に

表2 バシレイオス一世の家族とその埋葬場所 (『儀式について』より筆者作成)

名前	続柄	地位	埋葬施設	埋葬位置
バシレイオス一世	本人	皇帝	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
パンカロ	母		聖エウフェミア修道院	聖エウフェミア聖堂
マリアノス	兄弟	スコライ軍団長	聖エウフェミア修道院	聖エウフェミア聖堂
シュンパティオス	兄弟		聖エウフェミア修道院	聖エウフェミア聖堂
(マリア)	妻	(離婚後マケドニアへ)		
アナスタシア	娘	将軍クリストフォロスの妻?	聖エウフェミア修道院	先駆者の礼拝堂
コンスタンティノス	息子	共同統治者	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
エウドキア・インゲリナ	妻	皇后	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
レオン六世	息子	皇帝	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
(ステファノス)	息子	総大主教		
アレクサンドロス	息子	皇帝	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
アンナ	娘	修道女	聖エウフェミア修道院	先駆者の礼拝堂
ヘレネ	娘	修道女	聖エウフェミア修道院	先駆者の礼拝堂
マリア	娘	修道女	聖ミカエル修道院	
バルダス	息子	(詳細不明)	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟

表3 レオン六世の家族とその埋葬場所 (『儀式について』より筆者作成)

名前	続柄	地位	埋葬施設	埋葬位置
レオン六世	本人	皇帝	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
テオファノ	妻	皇后聖	使徒教会	コンスタンティノス霊廟
エウドキア	娘	(夭折)	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
ゾエ	妻	皇后	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
アンナ	娘	プロヴァンス公ルイと婚約	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
エウドキア・バイネ	妻	皇后	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
バシレイオス	息子	(夭折)	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
ゾエ・カルボノプシナ	妻	皇后	聖エウフェミア修道院	先駆者の礼拝堂
コンスタンティノス七世	息子	皇帝	聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟
アンナ	娘		聖使徒教会	コンスタンティノス霊廟

埋葬されている。名を上げるなら最初の皇后テオファノの娘エウドキア、ゾエの娘アンナ、三番目の皇后テオファノの幼くしてなくなった息子バシレイオスと最後の皇后ゾエ・カルボノプシナの娘でコンスタンティノス七世の妹アンナである。ちなみに四番目の皇后ゾエ本人はレオン六世との結婚が宗教的・政治的に問題となったこともあり、聖使徒教会には埋葬されず、前述の聖エウフェミア修道院にある先駆者の礼拝堂に埋葬されている。

## 5. まとめ

本稿ではマケドニア朝の最初の二人の皇帝バシレイオ

ス一世とレオン六世の家族の埋葬場所について比較した。

その結果、バシレイオス一世の時代には、コンスタンティノス霊廟の埋葬者は皇帝・皇后・皇位継承者に限定されていた。他の皇帝の一族はペトリオン地区にあった聖エウフェミア修道院に埋葬されているが、この修道院内でも皇帝の母と兄が聖エウフェミア聖堂、娘が先駆者の聖堂と埋葬場所に違いがあった。これに対してレオン六世の家族は多くがコンスタンティノス霊廟に埋葬され、霊廟はあたかも皇帝の家族墓という印象を与えるにまでなった。

しかし残念ながらレオン六世の後継者コンスタンティ

ノス七世とその子ロマノス二世は、家族が多くなかったため、この傾向がレオン六世の治世にみられる一過性のものなのか否かを検証することは難しい。

またこの間、篡奪者的な存在として政治史に大きな影を残したロマノス一世は、自身ミュレライオン（ミレレオン）修道院を建設し、ここに妻や家族とともに埋葬されている<sup>\*5</sup>。バシレイオス一世のペトリオン修道院から、レオン六世のコンスタンティノス霊廟、そしてロマノス一世のミュレライオン修道院と続く流れを想定し、その先に後の後世の有力者たちの修道院設立／家族墓整備を置いていいのか否かについては、今後の研究課題としたい。

付記：本稿は2006年度日本建築学会大会（関東）において発表するため準備した原稿に加筆修正したものである。

# 註

\*1 Philip Grierson, "The Tombs and Obits of the

Byzantine Emperors (337-1042)", *Dumbarton Oaks Papers* 16 (1962), pp.1-63.

\*2 井上浩一『聖使徒教会コンスタンティノス霊廟－墓所・葬儀からみたビザンツ皇帝権－』2006年度日本ビザンツ学会研究報告会（2006年4月2日：京都大学）

\*3 Nikolaos Mesarites, "Description of the Church of the Holy Apostles at Constantinople", XXXIX. ed./transl. Glanville Downey, *Transactions of the American Philosophical Society* vol.47 part 6, Philadelphia, 1957, pp.915ff.

\*4 Constantinus Porphyrogennetus, "De ceremoniis", II.42. ed.J.J. Reiske, *Constantini Porphyrogeniti imperatoris De ceremoniis aulae byzantinae*, 2 Vols. Bonn, 1829-1830. pp.642ff.

\*5 Cecil L. Striker., *The Myrelaion (Bodrum Camii) in Istanbul*, Princeton, 1981